

APEC「女性と経済サミット」 会場配布資料で紹介されたデータ (内閣府仮訳)

現在、全世界消費 18.4 兆ドルの内 1.2 兆ドルを女性がコントロールしている。この数字は今後数年間で 5 兆ドル増加する見込みであり、インド、ロシア、ブラジル、中国の消費経済の成長の潜在力よりも大きい。

(出典) Boston Consulting Group による 22 か国 12,000 人を対象とした最近の調査による。

女性市場の規模は最大で、最も速く成長している。

(出典) Boston Consulting Group による 22 か国 12,000 人を対象とした最近の調査による。

女性が正規の労働市場で活躍できれば、国民生産と国民所得が増加し、また、雇用が増えて、経済成長と貧困の削減に寄与する。

(出典) Economic Opportunities for Women in East Asia and the Pacific Region, World Bank 2010.

アジア太平洋地域は、女性の雇用機会へのアクセスが制限されているために、年間 420 億ドルから 470 億ドルの損失を被っている。また、教育のジェンダーギャップによる損失は年間 160 億ドルから 300 億ドルである。これらは経済費用だけの数字で、これ以外に、社会的費用と個人的費用が発生している。

(出典) United Nations Economic and Social Commission for Asia and the Pacific 2007

女性の起業家としての成果と女性の賃金・給与の水準には正の相関がある。女性が男性と対等の立場で持続的に企業経営できる経済機会を拡大させることと、安定したディーセントワークへの女性の参加拡大の取り組みは、同時に進行する。

(出典) Doing Business report 2008.

米国では、女性起業家が設立した企業の数は、1997 年から 2007 年の間に、540 万社から 780 万社に増えた。これは男性による起業の倍の増加割合で、新たに 50 万の雇用が創出された。

(出典) Women-Owned Businesses in the 21st Century, Economics/and Statistics Administration, United States Department of Commerce, October 2010.

ILO レポートの 2010 年版によると、東アジアにおける労働力参加率のジェンダーギャップは最も少ない。

(出典) Women in labor markets: Measuring progress and identifying challenges, International Labor Organization, March 2010.

東アジア・太平洋地域が南アジアや中東・北アフリカ地域と比較して成長率が高いことは、ジェンダー平等の度合いの違いによってほとんど説明がつく。

(出典) Economic Opportunities for Women in East Asia and the Pacific Region, World Bank 2010

ジェンダー多様性を優先する企業の営業利益率は、一般的に、優先しない企業の2倍である。経営陣に占める女性の割合と総資産利益率 (ROA)・株主資本利益率 (ROE) の間には正の相関がある。

(出典) Women Matter: Gender Diversity, a Corporate Performance Driver, McKinsey, 2007.

Women Matter 2: Female Leadership, a Competitive Edge for the Future, McKinsey, 2008.

生産リソースへのアクセスと生産リソースの利用におけるジェンダーギャップを埋めることによって、発展途上国の農業生産が平均 2.5%から 4%増加する。

(出典) Food and Agriculture Organization of the United Nations, The State of Food and Agriculture (2010-2011).